

令和8年度第2回広島県かきへい死に関する有識者会議の概要について

日 時：令和8年9月10日（木） 10時00分～12時00分

場 所：広島海区漁業調整委員会委員室（広島県庁本館4階）

（広島市中区基町10番52号）

形 式：対面・非公開（冒頭のみ公開）

出席者：有識者委員6名（web参加含む）ほか、広島県水産課及び水産海洋技術センター、広島市水産振興センターなど計20名

<会議の概要>

1 かきへい死の原因究明の検討状況及び対策提案に関する生産者説明会の結果について

- ・県から、令和8年度第1回有識者会議で示されたへい死原因に係る暫定意見の生産者説明会の実施状況を報告した。
- ・生産者からの意見等として、秋口以降のへい死要因の解明、個別海域の検討状況について要望があったことから、最終意見のとりまとめに向けて引き続き議論をしていくこととした。

2 かき成育に関する現状について

- ・梅雨時期の少雨は、暫定意見の中で令和7年の大量へい死の一因として考えられていることから、令和8年の降雨の状況について情報共有を行った。今年度は令和6年度並みの降水量で昨年度より梅雨時期の降水量が多く、降雨に関しては昨年度より良好な状況であることが確認された。
- ・座長による生産者へのヒアリングや県の現地指導により、大規模なへい死は確認されていないことが報告され、昨年度のかきの大量へい死が確認され始めた9月下旬にむけて引き続き注視していくこととした。

3 令和8年度のモニタリング体制及びへい死対策の実施状況について

- ・県から、今年度のモニタリング体制やへい死対策の実施状況について報告し、有識者委員から助言を受けた。県内主要漁場にある観測ブイの溶存酸素等の観測項目を拡充したこと、漁協や生産者と連携してかきの生残やむき身の状態を確認する体制を整備し、モニタリングを開始したこと、得られた情報に基づき、「かき養殖環境リスクレポート」を水産プラットフォーム（生産者向けのウェ

ブサイト）に試行的に掲載していることを報告した。アラートの発信状況（会議開催日 9 月 10 日時点）については、9 月 9 日に溶存酸素の厳戒アラートが発信されており、有識者委員からは、生産者が自身の漁場の状況を把握できる体制がとれるようになったことについて、非常に評価ができると意見を受けた。

- ・生産者のへい死対策の実施状況について、かき生産対策実証事業を活用した支援の進捗等を報告した。有識者委員からは、今年度の取組の効果を検証し、生産者に対して実例を踏まえて指導していく必要があると助言を受けた。
- ・県水産海洋技術研究センターから、へい死原因分析に係る試験のうち、水温や塩分（濃度）がかきの産卵やへい死に及ぼす影響について検証する水槽試験について中間報告が行われた。
- ・各有識者委員からは、瀬戸内海全体のへい死に係る原因分析の実施状況、瀬戸内海における有害有毒プランクトンの発生状況や、江田島湾のかきの状況、三津湾における海況や令和 8 年度 of 取組等について情報提供があった。現時点では、かきのへい死に関連する病気や有害有毒プランクトンの発生は確認されていないことが報告され、引き続き情報共有を行っていくこととした。

4 その他

- ・今後の有識者会議の開催時期について共有した。次回は、11 月中下旬に行い、へい死状況や新しい知見により検討をすすめ、昨年度の大量へい死の要因や対策について引き続き議論することとした。